

## 委員会の動き

(2024年3月～2024年5月)

### 運営会議

委員長 東野 雅彦



3月7日に第5回、および5月9日に第6回の運営会議を対面とWebのハイブリッドで開催した。3月の会議では報告事項として、能登半島地震調査報告会、30周年記念事業、可児長英氏特別講演会等について進捗状況を確認した。審議事項としては2024年度事業計画及び予算、次期役員及び審議員候補者について確認と審議を行った。5月の会議での報告事項として3月の会議で計画の説明があった、能登半島地震調査報告は4月4日にWebinarを会員向けに実施し報告書をHPに公開する方向で進めていること、30周年記念事業は記念会史の発行、最後の見学会の実施、およびアーカイブの作成など少数の項目を残しほぼ予定通り終了したこと、可児長英氏特別講演会が盛況にて終了した事、等が報告された。また審議事項として2023年度の予算執行状況、および次期役員と次期審議員を審議し、何れも承認された。この結果をもって6月14日に予定されている総会で最終決定がされる。さらに、次期運営会議委員（案）について審議した。

### 技術委員会

委員長 高山 峯夫



能登半島地震に続き、4月には台湾東部で地震が発生しました。耐震建物が倒壊するなど大きな被害が出ましたが、避難所の開設などの被災者対応は迅速で、日本の経験や教訓がいかされているという報道もありました。

また、震源に近い花蓮市から北に100キロほど離れた宜蘭県宜蘭市には免震建物（マンション）がありました。15階建てで、鉛プラグ入り積層ゴムと弾性すべり支承が使われています。この建物では免震層に設置されていたカメラで積層ゴムなどの挙動が記録されていました。最大変形は25センチ程度と思われそうですが、建物に被害はなく、免震機能を発揮していました。この建物では免震部材をカメラで撮

影しており、地震時の挙動がよくわかります。どういう仕組みになっているのか気になります。

### 免震設計部会

委員長 藤森 智



設計小委員会では、接合部指針と対津波設計マニュアルについて今後の改訂内容やスケジュールに関する検討を進めている。なお、接合部指針については今年度中での改訂を目指している。入力地震動小委員会では、今後の活動計画を確認すると共に、能登半島地震に関する強震動特性や地震被害に関する情報共有を行っている。また設計支援ソフト小委員会では、パッシブ・アクティブ併用免震、及び簡易風応答評価方法に関するExcelツールを開発中である。

### ●設計小委員会

委員長 中川 理



「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針」および「免震建物における対津波構造設計マニュアル」に関わる内容を主テーマとして活動している。「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針」については、年度末の改訂を目指しており、新たな知見の反映や指針内容の改善点などを協議している。各章での担当委員を決めた前回委員会より、本格的な作業に入ったところである。「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針」の改訂を先行して行うため「免震建物における対津波構造設計マニュアル」については、今後数年を目標に改定を行っていく。委員会は一か月半/回のペースで行っている。

### ●入力地震動小委員会

委員長 久田 嘉章



2024年5月16日に第139回の小委員会を開催した。今後の活動計画と委員の役割分担の確認を行った後、久田委員長より「土木・建築の協同によるマルチハザードに対応可能な耐複合災害建築・まち」に関する報告、2024年4月3日の台湾。花蓮地震の地震動や免震建物の挙動に関する報告があった。

### ●設計支援ソフト小委員会

委員長 會田 裕昌



パッシブ・アクティブ併用免震のExcelツール開発と免震建築物の耐風設計指針の付5免震層の簡易風応答評価方法の計算Excelを2023年仕様に改良している。

### 耐風設計部会

委員長 吉江 慶祐



前回に続き、活動テーマである1.時刻歴風応答解析のガイドライン、2.疲労評価のための風の継続時間の評価方法、3.免震部材の対風性能検証の標準項目の整理と提示、4.制振構造への展開 に関する情報収集や意見交換を行っている。

### 施工部会

委員長 淵本 正樹

免震構造施工標準の改訂（2025年版）のため、隔月開催の部会とメールおよびファイルサーバーを活用した意見交換を通して、各メンバーに割り当てた担当部分の改訂原稿作成を進めている。2024年7月末までに第1次原稿の作成をとりまとめ、2024年11月末までに改訂作業を完了させる予定。

### 免震部材部会

委員長 高山 峯夫



免震部材部会の今年度の主な活動として、免震部材接合部標準化WGを設置し、取付部の標準化について検討している。まずは積層ゴム支承を対象に標準図を作成できるように議論している。

### 制振構造部会

委員長 辻 泰一

### ●制振評価小委員会

委員長 佐藤 大樹



3月11日に制振部材品質基準小委員会との合同委員会が開催され、両委員会で行われた「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」の相互査読の結果が報告された。その後、本委員会のWGが「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」の執筆担当部分の最終校正を行い、原稿を入稿し、改訂作業を完了した。5月21日には改訂した「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」の講習会を実施した。

### ●制振部材品質基準小委員会

委員長 辻 泰一



本年度中の「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」改訂第4版の刊行・講習会開催に向け、制振評価小委員会と共に原稿作成を進めている。10年振りの改訂となる第4版では大幅な加筆、増補を予定しており、本編・別冊の2部構成となる見込みである。また、免震・制振部材JSSI規格-2023-の制振部材に関する規格最終案を作成し、新JSSI規格検討部会に提出した。（小委員会Web開催：3/29（14名）・5/22（12名））

### 防耐火部会

委員長 池田 憲一



防耐火評定部会から「耐火構造用性能担保温度並びに共通加熱試験体適合確認済み免震材料一覧」への追加申請に対する審査の実施報告を受けた。また、新たに設置した同審査に関する「基準改定WG」を3回開催し、現基準の問題点と今後の改定について議論がなされた。

### 実大動的特性評価委員会

委員長 室田 伸夫



本委員会は、2024年度よりこれまでの「実大免震試験施設活用委員会」に代わり発足し、活動を開始する。委員会の目的は、国内初の実大動的加力試験

施設であるE-ISOLATIONを活用し、実大免震部材の動的特性について様々な実験評価を行い、得られた新知見をJSSI規格や免震用積層ゴム支承規格ISO22762/JIS K6410の改訂・新設へ役立てることである。尚、本委員会は、一般社団法人日本ゴム工業会（JRMA）との共同で運営され、JSSI規格（2023）策定委員会およびJRMA建築用免震支承WTのメンバーを中心として構成される。

## 普及委員会

委員長 前林 和彦



2024年度の普及委員会の実施計画について運営幹事会で決定した。主なものとして、能登半島地震や他の大地震時に免震建物が良好な効果を発揮していることを一般の人へアピールする講習会の開催、日本病院会をはじめ各種団体・協会の機関誌へ免震広告掲載、意匠設計者向け免震講座の開催、免震設計初心者対象の免震設計講座の開催、会員向け免震フォーラムの開催などである。今後、順に詳細を検討して実施していく予定。

## 教育普及部会

委員長 谷沢 弘容



前年度最後の『わかりやすい免震構造の設計』講習会として（演習編）を2024/4/17（水）に対面形式でおこなった。また、5/24（金）に今年度のキックオフを行い、年間計画を取り決めた。

## 出版部会

委員長 浜辺 千佐子



2024年4月より、千馬様の後任で委員長を担当させていただきます。よろしくお願いたします。2024年3月27日に久しぶりに対面で全体会議を開催した。千馬委員長ご退職につき、委員長の交代、メンバーの一部交代の旨、アナウンスを行った。また会誌については、2024年4月発行の会誌124号の進捗状況を確認し、7月発行予定の125号の掲載案件の議論を行った。10月発行の会誌126号を30周年記念事業特集号とし、これまでに速報で掲載した見学会やイベ

ントの開催報告記事を、あらためて校正して編集する。また、協会30周年記念事業に関する今後の予定として、6月末発行予定の記念会史の出版にむけた進捗状況、7月実施予定の功労者の座談会の調整状況について情報共有を行った。

## 社会環境部会

委員長 人見 泰義



日本免震構造協会SDGへの取り組みをホームページに掲載しました。宣言に示された内容を会員の皆様のご協力を得て実行できるように、今年度からは、LCAなど免震の優位性を示す資料を整備し公開する予定です。

## ホームページ検討部会

委員長 磯部 共伸



検討部会を毎月開催しています。英語版ホームページの製作も鋭意進めており、今後は公開に向けてのチェック段階となります。公開は夏頃を予定しておりますのでご期待ください。その他、協会ホームページを活用してさまざまな情報を発信しております。

## 国際委員会/ISOTC98「構造物の設計の基本」への提案委員会

委員長 齊藤 大樹



3月22日と5月24日に国際委員会を開催した。3月8日に国際委員会のメンバーが中心となり30周年記念事業の国際シンポジウムを開催し、同時に世界の免震構造の現状をまとめた特集号を発行した。また、令和6年度の国交省受託事業としてトルコ国への免震周辺技術の展開事業が採択されたことから、今後、国際委員会としてもトルコとの技術協力を推進していきたいと考えている。免震構造のISO規格については、5月14日に国内WGを開催し、設計事例のTR（Technical Report）の作成に向け、日本側の設計事例を国際WGメンバーに送り各国の設計事例の執筆を依頼している。

## 免震・制振構造技術の 海外展開検討部会

委員長 高山 峯夫



国交省の国際展開事業への助成を受けて、トルコを対象にワークショップを開催するよう検討している。日本では9月初めにトルコから技術者が来日するのにあわせて見学会やワークショップの開催を、11月には日本から研究者や技術者がトルコに行きワークショップを開催する方向で協議している。

## 資格制度委員会

委員長 北嶋 圭二



資格制度委員会（運営幹事会及び6部会（2資格の試験、審査、更新の部会）で構成）は、当協会が認定する「免震部建築施工管理技術者」及び「免震建物点検技術者」の資格に関わる講習・試験及び更新講習（毎年度計4回）の実施、及びその合否判定の事業を担当している。2000年に発足した当協会の資格制度の資格保有者数は2023年3月現在、施工管理技術者6,530名、点検技術者2,717名となっている。

2023年度の点検技術者講習・試験はIBT試験を1月21日（日）に実施した。受験者は187名、欠席者6名、失格者4名であった。2月1日の幹事会で合否判定を行い、合格者179名、不合格者8名、合格率96%であった。2月上旬に合否発表を行っている。これにて資格制度の2023年度のイベントは終了し、2024年度の計画作業に入っている。

当協会の資格制度は2024年度も、講習試験はオンデマンド講習+IBT試験、更新講習会はeラーニングを予定している。

- ・施工講習・試験は申し込み開始が4月、オンデマンド講習が6月から7月、IBT試験が7月28日（日）
- ・点検講習・試験は申し込み開始が9月、オンデマンド講習が12月から1月、IBT試験が1月12日（日）
- ・施工更新講習は申し込み開始が6月、eラーニング受講が10月初旬、
- ・点検更新講習は申し込み開始が7月、eラーニング受講が11月中旬

に予定している。試験、講習の詳細は決定次第、協会HPで公開していくので参照していただきたい。

## 免震建物普及促進委員会

委員長 早部 安弘

## 新設計法検討部会

委員長 早部 安弘



2024年3月6日、4月25日に第8回、第9回部会を開催した。引き続き、簡易設計法の確立を目指して、上部構造の周期と免震層の面圧をパラメータとした2質点モデルによる動的応答性状の分析及び整理を行っている。各委員より提供していただいた約150波の検討用告示波を用いて、免震装置は高減衰積層ゴム支承、鉛プラグ入り積層ゴム支承および球面すべり支承を対象にしている。活動を開始して1年となるので、報告書スタイルでのまとめにも着手した。

## 普及促進部会

委員長 藤田 啓史



毎月部会を開催し、継続して普及に向けた打合せを行っています。普及の為の有効な手段として、「SNSを活用した情報発信」を検討中です。免震建物を訪問するYouTube動画を作成し、普及幹事会でのチェックを完了しました。6月の一般公開に向けて最終調整中。JSSIのYouTubeがスタートした際には、チャンネル登録を宜しくお願いします。

## 創立30周年記念・ 関東大震災100年委員会

委員長 古橋 剛



当協会は2023年6月に創立30周年を迎えた。これを機に各種の記念行事を企画することとした。創立30周年記念・関東大震災100年委員会のもとに、各種の行事を企画・運営する組織として5WG、7SWGを設けている。2024年度に入り、既に多数のイベントが盛況のうちに終了している。ここでは、まだ活動中、あるいは報告期間中に活動のあったWG、SWGの活動内容を簡潔に紹介する。

## ●記念誌編纂 WG

### ・記念誌 SWG

会誌特集号は2024年10月号を予定している。座談会を企画中である。

### ・アーカイブ SWG

協会発行の本、指針、シンポジウム資料などを電子化し、協会 HP で検索、閲覧できるようにする。記念事業終了後も協会の定常的な事業として継続していく予定である。

## ●国際 WG

世界中から免震構造に関心を持つ建築技術者や研究者が一堂に会し、免震構造の過去と現状と未来について議論する機会を提供することを目的とし、オンライン形式の国際シンポジウムを2024年3月8日に開催した。

## ●広報 WG

### ・見学会 SWG

2024年5月22日、東京2「30年前の免震と木造免震」を開催、合計5回の記念見学会を終了した。

## ●可児長英氏 特別講演会

創立30周年記念事業のひとつとして、協会元専務理事の可児長英氏の特別講演会、「免震構造・協会とともに30年」が2024年4月18日に開催され、100名以上の方に参加いただいた。

2024年度に入り、協会創立30周年の各種の記念行事も概ね大半が終了した感がある。どれも盛況で価値ある企画となったと考えている。これもひとえに会員各位、委員各位、事務局の皆様の協力・努力のおかげであり、委員長として御礼を申し上げます。